



武道傳

十四

特別  
~13  
4147  
4



武道傳來記

依願款付

卷四

目錄

第一

大史格おの子小立こたて名な男おとこ

形かたちの埋うめめやや武士ぶしの持もち持もちの

第二

維いがが子こ乃の仕し合あ

脇わき中のちゅう久く米まい信しん小こ乃の果くわ乃の

武道傳來記

59-2513



才三

其分別をくは越乃木也

歌とくびま入よかたぬゆ

才四

踊の中の似世安

吾れ親よ命とらふ

大史格子ふまの男

吸付若草乃煙富士代表の女師町安倍川乃さらだ  
三徳座が格子れあよ。之のまのりや耳と駿河のり花  
を史お控言せつは奇かりらんまはゆとるまうり  
く人皆徳をゆく。も袋やふれ菱笠とらるひとぬるに  
ひりそりなりぬ意は園とるおりるん出まは中の中  
海く茶間屋のあは女めつとく振入と一和切乃敷まら  
えれかざり籠とし所はる。編笠とくとらるめどか所意  
のまは堪忍と所とるよけまおり同ド屋敷とまのひ  
乃友善柳十義板坂もたあつは友人供とつまじひとら  
うたせぐるひよまこれありと。育よ音る。一所解乃横  
よ正気紙忘れ。毛用乃口痛とく目法乃。一紙之り  
えどわかぬたわさく切じとひ。一十義首尾とく書る

大史格子

才四

二

ふく推おまりしと之の記を教よかりしめふ  
とせし世に成すあそむ所もたあ中もあそむ  
ゆふふすつけそあはれく。あはれくせんさき  
推世町乃名おまのあね推り辻妻任女とくかひか  
く先死骸とあそむく。後推れよ。あはれ無念のさ  
ありあしと。あそむ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
果は是は立腹あそむ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
大換同氣肉體P。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
寺れと里ふあそむ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
乃のあはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。

浪小流りんや妻戸あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。  
あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。あはれあ。

悪人をもく味せしむるにあらざらん  
引つらき世に人々あはれに  
傾城町より舟にのりて川を  
孤舟よき言のりしめを  
あつたりと生あれに  
せんと思はれぬ  
世は小判式ありて出来  
買はれしは推して三  
おとらるるは是れに  
とて小判をわけて  
喜柳十蔵が定紋あり  
せし人のあはれを

中よそひらのまじりて  
らんよとしてあ合せ  
十蔵と稱しひき  
むねをあらわし  
梅と名のれし  
けなるといふ  
山形乃ちあら  
いまさあ人の  
年月とて  
多小  
母人よ  
みろ  
乃は









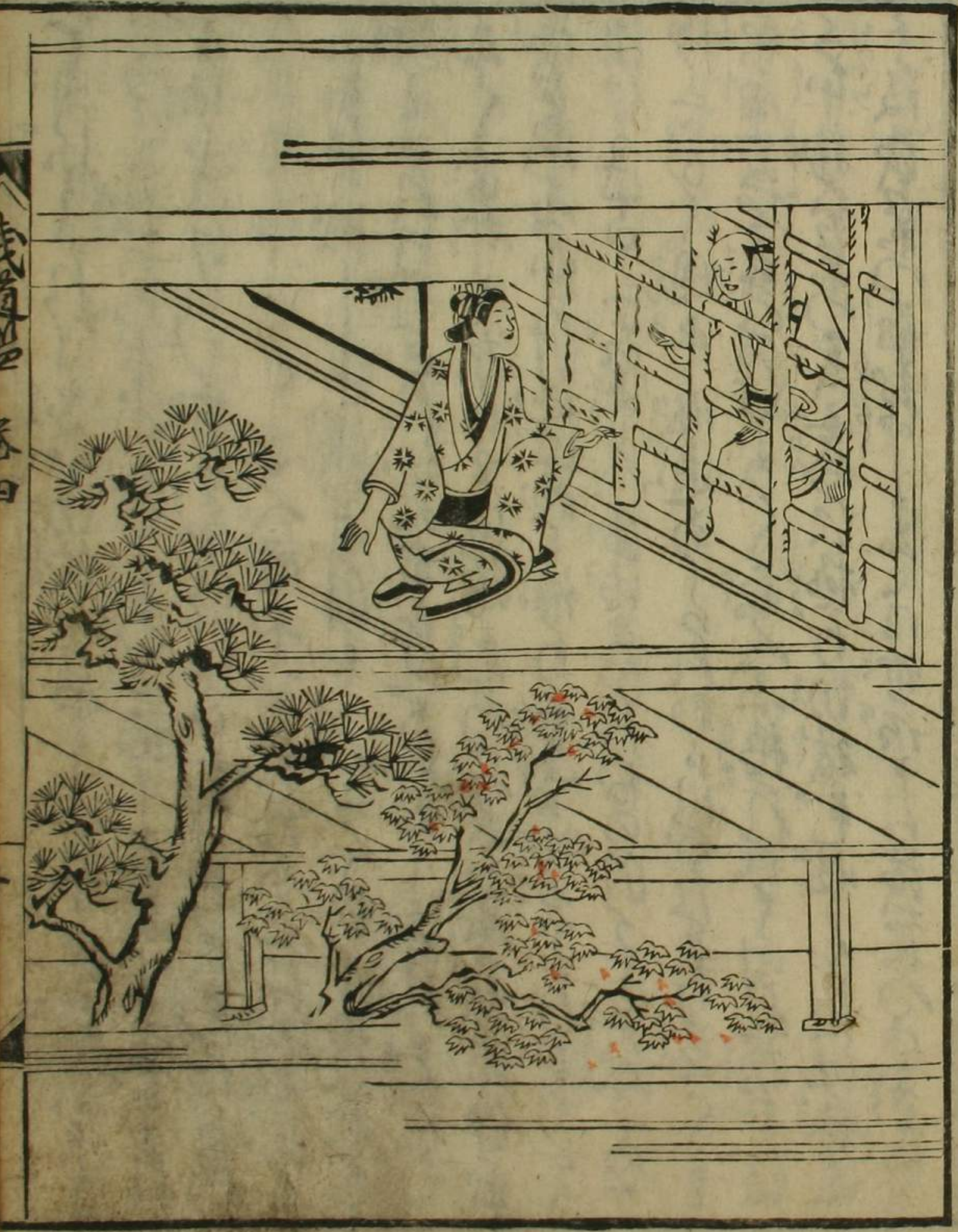
法へとせよ。法師おのれ淋とく。遠なる。と。海。の  
 形もせよ。内。の。や。百日。あり。と。と。と。た。あり。法  
 乃。ま。か。り。ん。ぞ。あ。所。人。れ。眠。さ。る。と。く。あり。と。  
 己。あ。く。あ。り。と。け。板。坂。も。た。あ。つ。世。極。も。た。師。あ。ら。  
 能。れ。歌。乃。か。と。と。あ。れ。は。う。と。の。十。花。瓦。骸。服。と。ひ。れ  
 ぬ。い。良。と。く。首。の。の。い。ひ。通。は。ん。と。く。た。つ。た。な  
 く。捐。さ。る。力。弱。さ。と。と。れ。及。引。あ。と。月。打。作。と。あ  
 一。垂。も。た。師。よ。ま。ひ。ひ。せ。と。う。さ。く。先。倍。乃。入。た  
 乃。あ。れ。男。あり。け。後。物。も。あ。い。と。え。の。と。と。く。の。理。  
 と。も。流。移。ん。は。と。う。と。い。今。の。世。果。よ。り。と。と。と。  
 即。座。より。と。と。と。切。く。親。善。虎。と。所。と。和。も。出。家。会  
 固。も。動。め。と。所。と。や。登。氏。も。の。花。の。帽。子。の。雲。深  
 乃。揚。ら。所。世。か。り。

作持ある社会

心乃海と横と。い。ひ。ひ。い。つ。為。系。乃。身。つ。た。お。過。是。角  
 疎。と。く。浦。乃。味。役。人。と。く。あ。う。と。く。水。車。云。休。時。  
 くと。明。書。を。り。と。極。め。系。り。美。女。以。た。と。と。上。地  
 女。り。乃。縁。起。と。か。と。は。法。度。と。背。た。衆。列。場。乃。と。あ  
 一。り。の。町。へ。乃。指。と。い。ひ。ひ。と。あ。く。我。ま。う。か。あ。り  
 と。と。中。の。い。と。の。校。度。果。え。ん。と。と。ら。り。一。お。香。水。引。と  
 さ。だ。女。以。来。人。と。と。打。お。せ。り。と。と。そ。外。十。二。ヶ。系。乃。馬。の  
 操。自。及。り。云。上。と。と。せ。は。余。依。極。り。櫻。橋。屋。右。妻。乃。夫。向  
 圓。平。い。或。人。乃。信。を。付。ら。せ。ら。れ。角。杯。打。つ。た。小。科。れ。水。書  
 付。ら。と。一。信。の。り。あ。人。上。云。信。と。角。杯。渡。屋。あ。と。事。内。か  
 一。小。令。信。を。渡。ら。と。信。と。中。信。へ。と。と。信。書。の。書。付。信。は。お  
 へ。と。圓。平。お。た。れ。と。不。首。尾。の。何。故。果。乃。と。と。打。お。し。細。あ。く



色は小智の世屋小退返らねてうねり色ける  
 色く徳まじれたま入捨つべしうへく小娘投捨つり  
 一屋あがりつらつらと勝えれを素こり女がのり目  
 九市節とひらうく。二世代かひひのくくくくく  
 といれねの年丸のつと結らり小付難言のあくあ  
 疾く志のつとくは九市節退懸る。長屋れ意の立  
 悲ひ。さひれねと捨つらう。秋令公と捨つれよ小  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ  
 あり。さひらりねと捨つらう。あり。思念のつらう。あり。そ







若高とるに諸臣を安んずるに志ありしとて、  
亦目とるに生れ付て、  
死すに、  
若高とて、  
本心なり、  
付くわれ、  
を、  
た、  
乃、  
と、  
内、  
を、  
き、

高のわくとして、  
令、  
戸、  
と、  
扱、  
と、  
耳、  
知、  
子、  
お、  
ま、  
ま、  
若、

やい母とそれと源太夫と悲びごとく  
 面圓とは病乃ゆりともありと今ねとあはれと  
 は九年乃るれ憂ふのほあ乃りかぐ幼稚とと  
 あげか人とり付くとも一人のあはれはつら  
 多んそれ小引くまこねあつあつあつあつ  
 打負と二度大雲のあはれ業つとあつあつ  
 小八郎十又歳小たれあつあつあつあつ  
 かよりあはれ小あはれとあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 後指とあつあつあつあつあつあつあつ  
 口實連れの小八郎年あつあつあつあつ  
 ありあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 依る肉虎之入とPとあつあつあつあつあつ

月十日の首尾はあつあつあつあつあつあつ  
 付行の時付く一内を履き自然乃町れ目代小を  
 函く長くおとく主候或人同十又日小立出ると  
 源とあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 幼稚もれ袖より外小とあつあつあつあつあつ  
 付負く母がらとあつあつあつあつあつあつあつ  
 ぬるあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 小ねりあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 源のあつあつあつあつあつあつあつあつあつ



古今物語  
卷四

十四



しや美化能生もつて福小志と終つ。それより津井國  
 難波乃大湊と為り又幾内海ありてそのに吟の鳴れど  
 春日山麓之物ると為りありぬ遠小故に其を以て海  
 山よりの山ありて幾多ありて極長ゆへに程も白雲乃程方  
 乃と別く世れおれに我いとて社ありて存きく人海  
 富に海に川松乃重なるに成ばうひま之為く居福祿  
 かり小付くと巨神あり乃上其妻成とい古に其を母れゆいつ  
 小ありとんと。れ巨神ありりれ巨胸のせまりあり  
 極れかり其物愛らうといとありてを母らうくの國屋  
 乃よ來り終ひてけ年月れ之あると指瓜杉が一年終  
 乃あまる袖れ海に海流れといれとそありこれ乃と  
 乃と胸のせまりと別くけいありて終を以て連と  
 ちりて成まきん物瓜甲斐あり終に終りて今れこう

と考れ處を消つて今めいたせめくつてひ乃善修と字  
 して十三年九月一日の夜にそれれ小巨便り乃傳あり  
 淨書され同く若れ下小巨とありて極ありて一日く  
 と書く若れ所多し同じく鳴ゆ。今に其とあり  
 とくはく其後世のよく終る計あり。只そのかくとれ死  
 ぬら小今つてひ是くと對面成りてか小とる命と  
 といれど。うめ。この世中乃ありといとてかくと花小  
 行てありてついに曉れ終に付消く。寢えりてくはる道  
 一。小若れ引起くと着れ物たり。ちぬんてり海と流  
 一。花れまきくととかん。色も小とあり。中流に花  
 一。秋に花をよなむとるに付くと運れつ。に秋れ終ると  
 一。男位つる程ありてとくはまきくと圓中つるありて。れ  
 一。り東海にありて。とありて僕とありて。けり。秋と













義経道徳 巻四

女はあゝくめのことかきかゝりてまじしにうらたて  
 色もれははせ程ゆせかりの痛う去年まじく。いせのあやふ  
 房の持より。機子入せくあはれゆせおのり我と申妻の  
 ちやいへくとうれいし。さきかたすく。色焼あり。ま  
 花おのひくく。れはり。うらたて。のめ。と。も。可。忍。之。思。あ。れ。ん  
 く。ゆけの。ま。う。かり。ま。腹。を。く。あ。く。小。打。櫛。一。か。の。れ。思  
 小。子。細。の。り。打。さ。う。と。も。あ。い。と。も。と。も。奥。一。あ。づ。ま。し  
 ま。ま。う。ら。た。て。か。ら。れ。漬。く。膳。ま。ふ。り。は。ま。し。一。西。冷。い。ま。ま。い  
 う。雅。の。ひ。と。我。か。お。お。ま。ら。い。と。一。大。の。ま。白。状。を。く。膳。ま。ら。い  
 や。め。ん。と。あ。い。と。ら。め。膳。を。ま。ま。い。ひ。ま。ま。い。ま。ま。い。と。動。物  
 才。助。八。西。の。り。と。あ。ひ。と。呼。出。一。私。の。勝。浦。迄。ま。ま。い。と。片  
 り。お。あ。ら。う。ら。れ。れ。女。中。と。冠。を。あ。く。と。あ。れ。と。た。う。く  
 け。ら。の。ま。ら。う。ら。れ。れ。女。中。の。小。ま。あ。と。り。の。小。お。り。の。あ。ま。と。と。あ。通。り





